

## 評価結果調書

## 1 事業の概要について

項目	内容
① 事業名	市岡下水処理場雨水ポンプ外設備工事
② 担当部署	建設局下水道部設備課 (06-6615-7895)
③ 事業目的	老朽化した雨水ポンプ設備を改築し、雨天時の排水機能について信頼性向上を図る。
④ 事業内容	市岡下水処理場に設置する No. 1, 2, 5 雨水ポンプ設備及び付帯設備の設計・製作・据付を行う。

## 2 PPP/PFI 手法を導入しないこととした理由について

定性評価及び定量評価より、事業の性質上、民間事業者の創意工夫を活用できる余地が少ないことに加え、理論値としてのVFMは生じているものの、現実的には従来型手法からの費用削減効果もほとんど見込めないことから、選択したPPP/PFI手法は不採用とした。

### 3 定量評価結果

	従来型手法	選択した PPP/PFI 手法 (BT 方式)
① 整備等費用 (運営費除く)	32.1 億円	31.5 億円
<算出根拠>	現在の単価等に基づく概算額	民間事業者へのヒアリング結果 2%とした。(BT 方式での削減効果は 0~2%)
② 運営費等費用	0.0 億円	0.0 億円
<算出根拠>	—	—
③ 利用料金収入	0.0 億円	0.0 億円
<算出根拠>	—	—
④ 資金調達費用	2.1 億円	2.1 億円
<算出根拠>	想定される起債充当率、起債利率、起債償還方法(償還期間、償還方法)をもとに算出 【①整備等費用】×50%(起債充当率)×起債利率 0.8%・償還期間 30 年の元利金等償還	想定される起債充当率、起債利率、起債償還方法(償還期間、償還方法)をもとに算出 【①整備等費用】×50%(起債充当率)×起債利率 0.8%・償還期間 30 年の元利金等償還
⑤ 調査等費用	—	0.25 億円
<算出根拠>	従来型手法の場合は想定せず	0.25 億円(導入可能性調査の費用及びその後の業務委託の費用の想定)
⑥ 税金	—	0.0 億円
<算出根拠>	従来型手法の場合は想定せず	—
⑦ 税引後損益	—	0.0 億円
<算出根拠>	従来型手法の場合は想定せず	—
⑧ 合計	18.2 億円	18.1 億円
⑨ 合計(現在価値)	15.2 億円	15.2 億円
⑩ 財政支出削減率 (VFM 試算)		VFMは、0.1 億円 0.4%
⑪ その他 (前提条件等)	事業期間 30 年間 割引率 1.2%	事業期間 30 年間 割引率 1.2%、BT 方式